夏真っ盛り

校校庵だより

07

住職挨拶

検校庵 住職　鈴木 恵道

コロナも五類感染症に移行し、少しずつですが以前のような供養の姿を見ることが増えて参りました。

今年もお盆を迎える時節となりました。検校庵では毎年七月八日が施食会の法要を行う日と決まっております。

今回は「施食会」をご紹介させて頂きます。過日行われた法要の様子を交えながら説明をさせて頂きますので、是非ご一読ください。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

○施食会

曹洞宗も昔は「お施餓鬼」と呼んでおりましたが、現在は「施食会」と呼んでおります。

仏教の教えと日本古来よりの先祖供養が融合し、お盆の時期には「施食会」と呼ばれる先祖と新盆の供養を大勢の僧侶で行います。

検校庵では毎年七月八日を施食会開催日とし、毎年の先祖供養、新盆の供養、永代の供養、合同塔の供養、戦死者の供養など多くの仏さまを八月のお盆にお戻り頂く前に供養し、お迎えの準備を行っております。

この法要は、古くから次のような伝承を元に行われた「分かち合い・施し」の法要と云い替えることができるかと思います。

お釈迦様の一番弟子である阿難尊者さまが焔口餓鬼に対して一器の食物を供え、「加持飲食陀羅尼」を以って難を逃れたという逸話があります。

さらに、目連尊者が餓鬼道に堕ちた亡母への供養の為、多くの修行僧に御馳走を施した逸話を元にした「盂蘭盆会」という法要が融合されて、現在の施食会という法要がお盆の時期に執り行われるようになりました。

民衆による先祖供養としては盆踊りが有名ですが、室町時代より精霊を迎える為、死者を供養するために踊られ続けております。

お盆は「命と向き合い考える」期間と捉え、襷リレーの様に繋いで頂いた「この命」を自分がどの様に使っているかを報告し、ご先祖様からどのようなお声掛けを受ける事が出来るかと考える時間を設けてみては如何でしょうか。

お寺の様子

お檀家さまには、お寺を護るための組織である護持会に加入していただいております。コロナ禍で様々な行事が中止となり、護持会の予算に多少の余裕が生まれ、境内の整備費用に充てていただくことができました。

まず最初に行われたのは、庫裡廊下の修繕です。痛んでいた床材の上に新しい床板を重ね張りし、補強が行われました。

次に、検校堂に降りるための階段に手すりが設けられました。検校庵のルーツとも言えるお堂にお参りされる方は多いですが、手すりの設置により、今まで以上に安全にお参りいただくことが可能となりました。

また、境内には老桜が多く、必要に応じて枝打ちや伐採が行われております。便利で快適とは言い難い現状ではございますが、お参りの際にご不便がないように境内の環境維持に努めて参ります。お寺に対してここを改善してほしいなどの要望がございましたら、電話でもメールでも結構ですので、お知らせいただければ幸いです。

ソナエル project（プロジェクト）

曹洞宗では、今年からSDGs推進事業として「ソナエル project」という取り組みを始めます。

例えば、茅野市社会福祉協議会など、私たちが住む地域の課題解決に取り組む団体にお供物を寄贈する取り組みです。故人への供養と地域の困難をつなぐことで、社会に慈悲の循環（回向）をつくっていくことは、菩薩行の実践となるはずです。

ひとり親家庭への支援、防災のための備蓄、子ども食堂への食材提供など、多くの課題が考えられます。「ほとけさま」へ供えるソナエル行為を通して施主は徳を身に具えるソナエル。お供えされた供物が循環していくことで社会は安心を備えるソナエル。

曹洞宗ではこの取り組みを「ソナエル project」と名付け、慈悲の循環を広げる活動を実践するためのモニター募集を始めました。

検校庵では、立ち上げたばかりのこのプロジェクトに賛同し、早速取り組むことと致しました。詳細につきましては同封のチラシをご覧ください。

奪い合えば人は傷つきますが、分かち合えば互いに和らぎ、笑顔が生まれるものです。

副住職コラム

仏・ほとけ・ホトケ

藤田清隆

新盆を迎える仏さま、お釈迦さま、各種仏像、ご先祖様も一緒くたにして「仏さま」と私どもは呼んでおります。

四十九日を過ぎれば仏の世界に辿り着く。だからもうお父さんお母さんは仏さまなのだよ、と云われて違和感を覚える方も多いかもしれません。

私は仏さまを「漢字の仏」「ひらがなのほとけ」「カタカナのホトケ」というように段階的に分けて捉えております。

亡くなられたばかりはカタカナのホトケと捉え、時間が経ち仏としての歩みを進まれたご先祖はひらがなのほとけと捉える。角が取れてくるイメージです。

そこから更に時を経て、三十三回忌弔い上げの頃には漢字の仏、お釈迦さまのような存在になる。

この様に考えてみますと、お釈迦さまと先立たれた家族の距離感の正体が見えてきます。

残された私どもには想像することしか出来ませんから、我が身に置き換えて考えてみましょう。

亡くなり、四十九日の旅を経て仏の世界に辿り着く。新米のホトケの完成です。

一周忌を迎える頃には仏の世界にも馴染んできますが、新盆の時期が近づくと、家族が自分の帰りを待って沢山のお供えをして迎えてくれます。

その様子を眺めるあなたはどのようなお気持ちでしょうか？

私は、「大丈夫、ちゃんとみてるよ。そんなにかしこまらなくて良いから。無理しないで、ありがとう。」という言葉をかけている姿を想像してしまいます。

法事のお供物はピラミッドのような三角形の山積みにした供物を供えなければならない、という決まりはありません。

一般的なお供物は、花、菓子、果物などと云われますが、なぜ供えるの？それがどうなるの？という事を皆様にお伝えすることを大切にしたいと考えます。

前号のコラムで書いた回向（えこう）の実践とも云えるのが同封チラシの「ソナエル project（プロジェクト）」ですが、仏さまのお下がりは参列者に限る必要もなく、全ての者達で分かち合うという選択肢があっても良いのではないかと考えます。

仏さま（漢字、ひらがな、カタカナ）は一様に「一人でも多くの者を救いたい」と願います。

ホトケとなった私を想像した時に出てきた言葉「無理しないで」の言葉通り、施主となった自分に無理のない範囲で供え、余裕がある範囲でよいので功徳をめぐらして頂きたいと願います。

修行道場では、自らが食す前に米粒七粒程を掴み取り、餓鬼に施す生飯（さば）という行為を行います。

集められて生飯台に供えられた米は、間もなくすると子鳥たちの食事として消えていきます。

その様子を眺めていると命の循環、功徳をめぐらす様子を味わうことができ、とても幸せな気持ちに包まれたことを思い出します。

【表紙】本年四月二十一日、三年振りに地元企業アイン様の新入社員歓迎会を兼ねた花見が本堂で賑やかに催されました。キッチンカーと本堂という珍しい様子の写真です。お寺を利用した活動は昔から行われておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

発行者 / 宗教法人検校庵　〒 391-0003　長野県茅野市本町西 13-17　発行責任者 / 鈴木恵道　編集責任者 / 藤田清隆
お問い合わせ /TEL 0266-72-3058　https:// けんぎょうあん .com/　検校庵だより「日々是好日」第 07 号　令和 5 年 8 月 1 日発行